



平成 19 年 5 月 23 日

各 位

会 社 名 日本精密株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮田 治
(J A S D A Q ・ コード : 7 7 7 1)
問合せ先
役職・氏名 取締役 田崎 政己
電話 0 4 8 - 2 2 5 - 5 3 1 1

特別損失の発生及び平成 19 年 3 月期通期 (連結・単独) 業績予想の 修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり、特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 18 年 11 月 29 日付当社「平成 19 年 3 月期中間決算短信 (連結) 」及び同日付当社「平成 19 年 3 月期個別中間財務諸表の概要」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 特別損失の発生及びその内容

(1) 機械装置の特別償却

主に 1995 年から 1997 年に渡り、ベトナム子会社立上げ時の投資設備の経年による評価見直しを行い、特別償却として 272 百万円の損失を計上しました。

(2) 棚卸資産の評価減

当社 O E M 生産の受注状況に合わせ、厳格に受注引当等を行い、在庫の評価減を行いました。時計バンド事業にて 26 百万円、メガネフレーム事業にて 31 百万円、応用品事業にて 6 百万円の合計 63 百万円の評価損失を計上しました。

2 . 平成 19 年 3 月期連結業績予想の修正等

(1) 通期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|-----------|--------|-------|
| 前回予想 (A) | 3 , 3 0 8 | 3 2 | 4 4 |
| 今回修正 (B) | 3 , 3 6 2 | 6 6 | 2 1 8 |
| 増減額 (B - A) | 5 3 | 3 4 | 2 6 3 |
| 増減率 (%) | 1.6% | 108.9% | - |

(2) 修正理由

売上高は、時計バンド事業については、欧州大手高級時計メーカーへの売上が 1 月

以降において若干の在庫調整をうけ63百万円の減少、国内大手時計メーカーへはイオンプレティング加工用時計バンドの売上が上期に引き続き好調に推移し30百万円増加、これにより32百万円減少しました。メガネフレーム事業については、ドイツ大手高級メーカーからは受注が引き続き拡大、民事再生申請中の株式会社村井からは、当社がスポンサー契約に基づき再生スポンサーとなり、株式会社村井は事業の継続が可能となり当社の売上が再開でき87百万円増加しました。全体として、これらにより前回修正予想を53百万円上回る見込みです。

経常利益は、売上高の増加による売上総利益の増加40百万円と、増資等による販管費の増加32百万円、株式会社村井の仕入業務に係わる信用供与の代行による手数料収入の受取等営業外収益の増加22百万円等、これらにより前回修正予想を34百万円上回る見込みです。

当期純損失は、投資有価証券の売却益等による特別利益の増加39百万円、ベトナム子会社での棚卸資産の在庫評価の厳格な見直しと機械装置の経済的耐用年数の見直し等による特別損失計上処理等により特別損失335百万円増加、これらにより前回修正予想を263百万円下回る見込みです。

(3) ご参考：前期の実績（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|--------------|-------|------|-------|
| 通期(4/1～3/31) | 2,862 | 260 | 585 |

3. 平成19年3月期単独業績予想の修正等

(1) 通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------|-------|------|-------|
| 前回予想(A) | 2,652 | 23 | 49 |
| 今回修正(B) | 2,624 | 58 | 218 |
| 増減額(B-A) | 27 | 35 | 267 |
| 増減率(%) | 1.1% | - | - |

(2) 修正理由

売上高は、時計バンド事業については、欧州大手高級時計メーカーへの売上が1月以降において若干の在庫調整をうけ67百万円の減少がありました。メガネフレーム事業については、ドイツ大手高級メーカーからは受注が引き続き拡大し32百万円増加しました。応用品事業については、静電気除去器関係の増加により10百万円増加しました。これらにより、前回修正予想を27百万円下回る見込みです。

経常利益は、売上高の減少と利益率の減少等による売上総利益の減少29百万円、増資等による販管費の増加31百万円、株式会社村井の仕入業務に係わる信用供与の代行による手数料収入の受取等営業外収益の増加20百万円等、支払利息の減少等による営業外費用の減少5百万円、これらにより前回修正予想を35百万円下回る見込みです。

当期純損失は、投資有価証券の売却益等による特別利益の増加39百万円、ベト

ナム子会社での棚卸資産の在庫評価の厳格な見直しと機械装置の経済的耐用年数の見直し等による特別損失計上を受けて、同子会社に対する貸倒引当金の積み増し等 268百万円等により、前回修正予想を267百万円下回る見込みです。

(3) ご参考：前期の実績（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|--------------|-------|------|-------|
| 通期（4/1～3/31） | 2,577 | 92 | 1,497 |

以上